

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品の名称 : K/SMOKE消火薬剤

会社名 : ヤマトプロテック株式会社
住所 : 〒108-0071 東京都港区白金台5-17-2
電話番号 : 0570-080100 (ナビダイヤル)
担当部門 : テクニカルサポート室

推奨用途及び使用上の制限 : 消火薬剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類区分

下記に記載が無い項目は、「区分外」「分類できない」あるいは「分類対象外」

物理化学的危険性

酸化性固体 : 区分2

健康に対する有害性

急性毒性（経口） : 区分4

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 : 区分2B

特定標的臓器・全身毒性（単回暴露） : 区分2(腎臓、血液)

: 区分3(気道性刺激)

環境に対する有害性

水生環境有害性 短期（急性） : 区分2

水生環境有害性 長期（慢性） : 区分2

絵表示又はシンボル



注意喚起語 : 危険

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

危険有害性情報

火災助長のおそれ：酸化性物質
飲み込むと有害
強い眼刺激
腎臓、血液の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

安全対策

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。
可燃物と混合を回避するために予防策をとること。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は手をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
環境への放出を避けること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
指定された個人用保護具を使用すること。

応急措置

火災の場合

適切な消火方法をとること。

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

暴露または暴露の懸念がある場合

医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

保管

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管しておくこと。

廃棄

内容物/容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

単一物質・混合物の区別 : 混合物
化学名又は一般名 : 消火薬剤

化学名又は一般名	CAS番号	官報公示整理番号	濃度又は濃度範囲
無機カリウム化合物	あり	あり	企業秘密
有機カリウム化合物	あり	あり	企業秘密
結合剤	あり	あり	企業秘密

4. 応急措置

飲み込んだ場合

気分が悪いときは医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

暴露または暴露の懸念がある場合

医師に連絡すること。

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

: 消火薬剤のため該当しない。

使ってはならない消火剤

: 特になし。

火災時の特有の危険有害性

: 加熱や、火炎に巻き込まれることで、分解するおそれがある。

熱分解や燃焼により二酸化炭素、一酸化炭素、酸化物、塩化物の飛まつを生じる可能性があるため注意する。

火災が発生した場合は、消火活動をせず、速やかに風上の場所に避難すること。火災付近のものは延焼防止のため、安全な距離より水をかけて冷却すること。

特有の消火方法

: 該当しない。

消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置

: 消火作業の際は適切な空気呼吸器、化学消火用保護衣を着用する。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容についてはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域とし隔離する。

関係者以外の立ち入りを禁止する。

作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚の接触や吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。

河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。

土壌中に埋めてはならない。

回収、中和、封じ込め及び浄化の方法・機材

「13.廃棄上の注意」の記載に従って廃棄すること。

二次災害の防止策

全ての発火源を速やかに取り除く。

可燃物（木、紙、油等）は隔離する。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 : 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用する。

安全取扱注意事項 : 直射日光を避けること。
接触、吸入または飲み込まないこと。

衛生対策 : 取扱い後はよく手を洗うこと。

保管

技術的対策 : 直射日光を避けること。常温で乾燥した環境下で保管すること。

混触危険物質 : 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管条件 : 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管しておくこと。

容器包装材料 : 製品容器。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（暴露限界値、生物学的暴露指標）

設定されていない。

設備対策

特別な換気装置は必要としない。

この物質を貯蔵ないし取り扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置することが望ましい。

保護具

呼吸器の保護具 : 適切な呼吸保護具を着用すること。

手の保護具 : 適切な保護手袋を使用すること。

眼の保護具 : 適切な保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用すること。

皮膚及び身体の保護具 : 適切な顔面用の保護具、衣類及び防護靴を着用すること。

衛生対策

: この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
取り扱い後は手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 固体
色	: 白色
臭い	: なし
融点/凝固点	: 情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	: 情報なし
可燃性	: 情報なし
爆発下限界及び爆発上限界	: 情報なし
引火点	: 情報なし
自然発火点	: 情報なし
分解温度	: 情報なし
pH	: 7.8～8.6（5%水溶液,20℃）
動粘性率（粘度）	: 該当しない
溶解度	: 水に可溶（濃度によりゲル化することがある）
n-オクタノール／水分配係数	: 情報なし
蒸気圧	: 情報なし
密度及び相対密度（比重）	: 情報なし
相対ガス密度	: 情報なし
粒子特性	: 該当しない
GHS分類	
酸化性固体	: 区分2

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

10. 安定性及び反応性

反応性	: 情報なし。
化学的安定性	: 通常の取り扱い条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の取扱い条件下では危険有害反応なし。
避けるべき条件	: 高温物との接触、摩擦、衝撃、直射日光、有機物、金属粉、強酸化性物質、強酸及び強アルカリとの接触。
混触危険物質	: 有機物、金属粉、強酸化性物質、強酸及び強アルカリ。
危険有害な分解生成物	: 熱分解や燃焼により二酸化炭素、一酸化炭素、酸化物、塩化物の飛まつを生じるおそれ。

11. 有害性情報

急性毒性	
経口	: 区分4
経皮	: 分類できない
吸入：ガス	: 分類できない
: 蒸気	: 分類できない
: 粉じん及びミスト	: 分類できない
皮膚腐食性／刺激性	: 分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 区分2B
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない
生殖細胞変異原性	: 分類できない
発がん性	: 分類できない
生殖毒性	: 分類できない
特定標的臓器毒性（単回暴露）	: 区分2（腎臓・血液）
	: 区分3（気道性刺激）
特定標的臓器毒性（反復暴露）	: 分類できない
誤えん有害性	: 区分に該当しない

12. 環境影響情報

生態毒性	
水生環境有害性 短期（急性）	: 区分2
水生環境有害性 長期（慢性）	: 区分2
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壤中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 分類できない

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託すること。

汚染容器及び包装

清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って、適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号	: 該当しない
品名	: 該当しない
国連分類	: 該当しない
容器等級	: 該当しない
海洋汚染物質	: 情報なし
特別の安全対策	: 該当しない
国内規制	: 「15. 適用法令」参照。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。

15. 適用法令

化審法	: 該当しない
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	: 該当しない
オゾン層保護法	: 該当しない
海洋汚染防止法	: 該当しない

16. その他の情報

すべての化学製品には未知の危険性や有害性があり得るという認識でご使用下さい。危険性や有害性も、使用時の環境、保管状態、保管期間によって異なります。ご使用時を含め、保管、廃棄に至るまで専門知識や経験のある方の指導の元で扱うことをおすすめします。

なお、記載の注意事項は通常的な取り扱いを対象としたものであって、特殊な取り扱いをする場合には状況に適した安全な条件設定を講じた上で、ご使用者各位の責任において使用して下さい。

本SDS記載の内容は我々が知り得た最新の情報に基づいて作成しておりますが、記載のデータや危険性、有害性等の記載内容に関してはいかなる保証をなすものではありません。ご使用に際しては国、地域、機関等の最新の規則、条例、法規制などを調査し、それらを最優先して下さい。
